

まちのニュース



笑顔(〽)きらり☆

取材でみかけたスマイルさん 《赤ちゃんクラブ修了式特集》



長い間、ありがとう

2/21 駒島小学校閉校記念式典

大正9年に糠内尋常小学校奥糠内特別教授場として開校以来90年間、地域の学び舎として、1,025人の卒業生が巣立った駒島小学校でしたが、児童数の減少により、忠類小学校に統合することになりました。この日の式典には、卒業生や地域の人たちなど320人が集まり、「これまでの伝統や思い出を忘れないようにしよう」と、改めて誓う日になりました。

昔の遊びもなかなかだろ？

2/24 忠類小学校 昔の遊び交流会

メンコやおはじき、こま回し…懐かしい遊びです。今の子どもたちにはすべてが初体験。教えてくれる地域のお年寄りの皆さんの周りに自然と子どもたちの輪が出来ました。「おはじきはどうやって遊ぶの？」という子どもの声に、何通りも遊び方を教えてくれました。初めて顔を合わせた子どもとお年寄りの皆さんでしたが、まるで昔からのお友達のように楽しんでいました。



若さあふれるステージでした

2/26 シルバーふれ愛まつり

ダンスやカラオケなど、日頃の練習の成果を発表する「第20回シルバーふれ愛まつり」が、百年記念ホールで開催されました。若々しい色鮮やかな衣装に身を包んで元気に踊る仲間の姿に、大きな拍手や歓声が送られました。

元気に活躍する会員の皆さんの姿が、とても爽やかに感じる一日でした。

子どもたちの安全を守ります

3/2 忠類保育所で除雪ボランティア

今年の大雪に悩まされたのは大人も子どもも同じです。忠類保育所のまわりに山のように積もった雪を、地域の建設業者の皆さんが力を合わせて除雪してくれました。

突然、グラウンドの中に入ってきた大きなダンブやショベルカーに、子どもたちはびっくり。瞬く間になくなっていく雪の山に、目を丸くして見ていました。



わあ、お茶っておいしいねっ

3/3 わかば幼稚園でひな祭り&お茶会

日本の伝統行事である「ひな祭り」が行われました。ひな祭りを楽しんだ後、園児たちは「お茶」を体験することになりました。しらかば大学の先生から、作法などを学んだ後は、甘い桜餅を食べて、抹茶に挑戦。

口の周りを緑色にしなが、「にが〜い、でもおいしい!」と、初めての抹茶の味を楽しんでいました。

手作りのみそはおいしそ〜

3/7 ふるさと味覚工房でみそ作り講習会

地産地消を目的に、消費者協会の主催による、みそ作り講習会が開催されました。参加した34人は、作業を分担しながら、テキパキと「みそ作り」に挑戦しました。

今回作った「みそ」は、1年間寝かせて熟成させることで、来年にはおいしいみそ汁となって食卓に出てくることになりそう。楽しみですね。



できたてアツアツのピザ

3/11 赤ちゃんクラブ修了式/保健福祉センター

子育てに奮闘するお母さんたちの、つながりを支援してきた赤ちゃんクラブ。このたび解散することになり、最後の修了式が行われました。この日は、食育講座の一環でマシヤパンから石窯を持って講師が訪れ、ピザを作りました。小さな子どもとお母さんが一緒に作ったちよっぴり形の崩れたアツアツのピザ。手づくりで出来立て! とてもおいしかったようですよ。

健康の秘訣は「笑い」です

3/13 生涯学習特別講演会

「落語を聴いて手をたたいて笑うと、健康にとっても良いですよ。」とは講師の三遊亭楽之介さんの言葉。落語は、話を聴いて情景を思い起こしながら笑うので頭の体操として最適、手をたたくと手にある無数の健康の「つぼ」を刺激するので、ぼけ防止にも効果的だとか。会場の皆さんが真剣に聞いていると、「だから今日は私の話で大いに笑いましょうね。」と落ちがつきました。



すんだ歌声にうっとり

3/14 サロンコンサート/百年記念ホール

声楽の全国大会に出場した小倉真理子さんが、おなじみの「花」や「早春賦」、「さくらさくら」などを澄んだ声で歌い上げ、来場者はうっとり。冒頭、ピアニストの波塚さんが「メガネを忘れました～」と駆け足で舞台裏に戻るハプニング。(笑) これで場が和み、ちょっぴり緊張していた小倉さんに笑顔が戻りました。



いただきますの大切さを再確認

3/17 木村まさ子さん講演会/百年記念ホール

ステージから会場に降りて、マイクを向けながら「いただきます」の意味を観客に聞いた木村さん。食べ物が自分の手元に届くまで、何人も人の手を経ていることを大人がよく理解し、子どもたちが「いただきます」と意味をわかって言える環境を作ることが大切というお話をいただきました。



百歳 おめでとうございます！



看護師さんと一緒に手作→りろうそくの火を消しました。とってもお元気！

岡田町長と記念撮影をす→る加我ハツエさん。

←高橋副町長から記念品を受け取る千葉ハツ子さん。



手型を持って記念撮影。→笑ってくださいと声をかけるとこの素敵な表情。



きたさん

いままでありがとう！

みなさんが通った幼稚園や保育所に、通園バスはあったでしょうか。あったとしたら、そのバスの運転手さんを覚えていますか？

今年、十勝竜谷学園幕別幼稚園のバスの運転手、北正幸さんが定年を迎えられ、退職されました。



【幕別幼稚園のバスの運転手に】

北さんは、深川市生まれ。自動車関係の仕事を長く勤めた後、平成元年1月に幕別幼稚園のバスの運転手に。今年3月の退職までに、北さんにお世話になった幼稚園の卒園児は実に1000人以上。責任感が強く、発熱時は座薬をさして出勤したこともあるそうです。

子どもが大好きで、「とにかく子どもと一緒にいるのが楽しかった」と、話してくれました。大人同士の付き合いよりずっといい…とも。(笑)



【若さあふれるなんでも屋さん】

バスの運転手さんといっても、送迎の時間以外は幼稚園の雑務をこなす用務員さんのお仕事も。園長先生は「こちらが言わなくても色々なところに目を配り、細かいことに気づいて積極的にてきぱきとこなしてくれる貴重な存在でした。」と、残念そうに話してくれました。

【子どもと触れ合うことを大切に】

バスから降りる子どもとハイタッチ！という光景は、他のバスの送迎ならあまり見かけない光景ですよ。これを楽しみにしている子どもたちもたくさんいたようです。「乗せてくれてありがとう、と言ってくれることが嬉しかった。感謝の気持ちを言葉で表現することは、成長の上で大事なことだよ」と、眼を細めて話してくれました。

幼稚園でやんちゃだった子どもが、何十年ぶりかでまちで出会った際に、「きたさ〜ん」と声をかけてくれたことがあり、「いくらやんちゃでも、立派に育つんだなあ」と思ったとか。(笑)



卒園式では、眼を真っ赤にして退職のあいさつをする北さんがステージにいました。もらい泣きする園児や保護者もいたようです。しばらくは、趣味のアウトドアレジャーを楽しむそう。北さん、本当にお疲れさまでした。